

耕平さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

☎052-757-1955

Kouhei@oh-Kouhei.org



皆さん、こんにちは。日中は暖かい日も増えてきましたが、朝晩はまだまだ冷え込みます。くれぐれもご自愛ください。

日常会話の中に含まれている仏教用語。知らず知らずのうちに使っている仏教用語。それだけ日本人の生活に溶け込んでいるということですね。

刑務所から出てくる刑期を終えた男。ふっと空を眺めながら「娑婆(しゃば)の空気は美味しい(うまい)なあ」と独り言。高倉健さんや菅原文太さんの映画を彷彿とさせる一シーンですが、この「娑婆」も仏教用語です。

「娑」 「婆」という漢字の組み合わせにとくに意味はありません。サンスクリット語の「サハー」という発音に合う漢字を当てただけです。

「サハー」の本来の意味は「忍土(にんど)」。忍ぶ土、つまり耐え忍ぶ土地。さらに言えば、人間社会のことを指します。私たちが生きるこの世界は、

耐え忍ぶことの多い「サハー」それが「娑婆」。耐え忍ぶこと、つまり「苦」が多い人間社会。「娑婆の空気が美味しい」というのは、仏教用語の本来の意味からすると、逆向きの受け止め方のような気がします。以前にもご紹介しましたが、「苦」はパーリ語の「ドゥッカ」の漢訳。そして「ドゥッカ」の本来の意味は「思うようにならない」こと。人間社会がなぜ「苦」かと言えば「思うようにならない」からです。經典を漢訳した僧は「思うようにならない」ことを「苦」と表したのです。耐え忍ぶことが多く、思うようにならない人間社会は「サハー」。「娑婆」は難しい場所なのです。

刑務所の中では「欲」を実現しようがなく、「欲」も湧いてきません。「娑婆」の空気は美味しいからこそ、誘惑に満ち、「欲」が湧いてきます。「娑婆」は自由な世界。「自由」も「世界」も仏教用語。去年のかわら版でご紹介しました。仏教用語だらけです(笑)。「自由」とは「自(みすか)らに由(よ)る」のですから、思うようになれば「楽」ですが、思うようにならないければ「苦」です。自分の「欲」が叶わない「娑婆」は「苦」に満ちているのです。それに耐えられないと罪を犯し、刑務所に逆戻り。「娑婆」では自分の「欲」を律するところが求められます。仏教用語的には、刑務所から出てきた健さんが「また誘惑に満ちた娑婆に出てきてしまった。娑婆の空気は危ないなあ」とつぶやくのが正解です。「娑婆」は日々是修行の場です。それではまた来月、ごきげんよう。

※



4月～6月新講座 (3回シリーズ) 中日文化センター/暮らしの中の仏教 三河新四国を旅する



本四国の「写し」霊場として、知多四国とともに全国のお遍路さんに知られる三河新四国。1626年(寛永2年)、浦野上人開創に遡り、1926年(昭和2年)、1965年(昭和40年)の二度にわたる再興を経て今日に至る歴史を旅します。そもそも邊地修行と言われたお遍路とは何か。お遍路の源流から旅は始まります。

講師 早稲田大学客員教授 大塚耕平

詳しくは下記フリーダイヤルまでお問合せください。



中日文化センター



0120-53-8164

